

15分でできる 虐待防止研修

第2回

気づきを伝え
チームでケアを見直す

入所施設で働く職員向け

施設名:

実施日: 年 月 日

研修用の架空事例を使用



気づきを伝え、受け止める

伝える側：見聞きした事実と、心配を分ける。

受け止める側：現在の安全と、必要な対応を確認する。

相談・報告と、市町村への通報の役割を理解する。

事例 夕食前の場面

ある入所施設の夕食前です。認知症のある A さんは、トイレへの移動に付き添いが必要です。

配膳の準備をしている B さんに「トイレに行きたいんですが」と伝えると、B さんは「さっき行ったばかりですよ。座って待っていてください」と答えました。

数分後、再び声をかけた A さんに、B さんは周囲にも聞こえる強い口調で「何回も同じことを言わないで」と言いました。A さんはうつむき、黙ってしまいました。

C さんは別の利用者さんの移乗介助中で、その場を離れられませんでした。すぐに応援に入れる職員もいません。

事例 リーダーに声をかける

移乗介助を終えた C さんがトイレに付き添うと、A さんは小さな声で「何度も頼んで、ごめんなさいね」と話しました。

C さんは、A さんが次から頼めなくなるのではないかと気になりました。一方で、B さんの忙しさも分かり、今後の関係を考えると伝えにくさも感じています。

C さんはリーダーの D さんに「B さんの対応で、気になることがあるのですが……。A さんが、トイレを頼んだことを謝っていたんです」と声をかけました。

D さんは勤務調整の途中です。夕食前が忙しいことは知っていますが、その場面は見えていません。



考えてみましょう

- 1 Cさんは、Dさんに何を伝えますか？
- 2 Dさんは、最初にどう応じますか？
- 3 今行う対応と、施設で見直すことは何ですか？

事実と心配を分けて伝える

「Bさんはひどい人です」では状況が伝わりません。いつ、どこで、誰が何と言い、Aさんがどう反応したかを伝えます。「次から頼めなくなるのでは」という心配は、事実と分けて添えます。分からないことを埋める必要はありません。

受け止めた人が次の確認を引き受ける

Dさんは「話してくれてありがとう。Aさんは今、どのような様子ですか」と応じます。排泄介助が済んでも、不安や体調、必要なケアを確認します。今すぐ全て聞けない場合は、対応を引き継ぐ相手と確認する時刻を具体的に決めます。



背景を確認し、対応を見直す

B さんにも別の場で、当時の業務や対応を事実に沿って確認します。忙しさを聞くことと、利用者さんへの影響を見過ごさないことを両立します。C さんに B さんとの直接対決や仲裁を求める必要はありません。

今の安全と、継続した改善をつなぐ

利用者さんの安全確認、記録、責任者への共有は今行う対応です。業務の重なりや応援体制は担当者を決めて見直します。施設内の確認が終わるまで、必要な市町村への通報を待つものではありません。

伝えた後の対応も共有する

D さんは管理者等と分担し、C さんへ「誰が確認しているか」「次にいつ状況を共有するか」を伝えます。個人情報が必要な範囲にとどめます。報告を受けた D さんも、一人で全てを抱える必要はありません。

振り返り

明日から見直す行動を一つ書きましょう。

自分だけでは変えにくい課題も、一つ残しましょう。

個人の行動と、チームで考えることをつなぎます。



出典と次の研修

厚生労働省 高齢者虐待への対応と養護者支援について

国マニュアル 第 1 章／令和 8 年 3 月改訂

高齢者虐待防止法 第 2 条・第 20 条・第 21 条

復習：第 1 回 虐待と不適切ケアの基本